

松尾昌樹（宇都宮大学・准教授・計画研究（A02）分担者）

Neo-Plural Society: a Model of Non-Inclusive Migration Society in Asia

本報告では、アラビア半島の産油国に特徴的な「包摂度合いの低い移民受け入れ政策」がグローバル、とりわけアジアで定着しつつある新しい移民社会の典型事例であることを、計量分析を用いた国際比較を通じて明らかにした。その際、受け入れ国の国民と移民が混じり合わずに社会を形成するという新しい移民社会のあり方を、人類学の **Plural Society**（複合社会）の概念を援用し、「新複合社会」として概念化した。

従来の移民受け入れ国の国際比較においては、移民「政策」の比較に重点が置かれる傾向にあった。しかし政策分析は、政策の結果として発生する「移民社会」の実態を反映しないという欠点があり、この問題を解消するためには移民「社会」の比較が不可欠である。他方で、従来の移民「社会」研究は個別の事例研究やエスノグラフィーが中心であり、多数事例の比較はほとんど行われていない。これに対して本発表では、移民「社会」の国際比較を可能とする **Neo-Plurality Index**（新複合性指標）を作成し、国際比較を行なった。討論者の **Weiner** 教授からは、「これ以上付け加えることはない」という高い評価を得られた。今回の「新複合性指標」は2011年の1時点に限定されるので、これを通事分析に適用可能な指標に発展させることで、今後の研究に繋げることができると思われる。